

「祈りの人になるには₃」

詩篇 22 : 1～3、149 : 1～3

祈りについて学んで来ましたが、さらにもう一つ、大切なことがあります。それは賛美です。実は、賛美も祈りに数えられます。賛美には大きな力があります。

「私は一日に3時間お祈りします」と有力な牧師先生から聞いたことがありました。しかしその3時間の間、ずっと声に出してお祈りだけしているかといえば、そうではありません。そこには必ず賛美があり、聖書のみことばを黙想し、思い巡らすときがあります。

特に賛美によって、神様は喜んで下さり、ご聖霊が働かれ、祈りが引き上げられます。

今日の聖書の学びの要点

- ・神様は賛美の中に住んでおられ、主を賛美するなら、キリストによって開かれた神様の処に行く道がさらに開かれます。礼拝も祈りも一番最初に賛美をします。そうすれば、神様がそこに臨在してくださり、心を引き上げて下さいます。

I、賛美の重要性

1、賛美はどういうことでしょうか。

①祈りには「願い」・「感謝」・「賛美」の3つの要素があります。

- ・殆どの場合「願い」：「～して下さい」「祝福して下さい」の部分が多いのが現実です。

②「感謝」：「～して下さいありがとうございます」

③「賛美」：「あなたをほめ歌います」「賛美を受けるにふさわしい方です」

「～があなたをほめたたえますように」という表現です。

その後に、その理由が付けられます。(詩篇 66 : 4、67 : 3、黙示 5 : 12)

2、賛美とは、神様に何を言うことでしょうか。

①私たちの主である神が、どのような方であることを告白することです。

②神様を賛美すると、神様は喜ばれ、私たち目を天に向けさせて下さいます。

地上がどうであれ、神様の御思いがどうなのかを思うようになります。

そして、主がして下さった恵みに対して、感謝が生まれてきます。

Ⅱ、神の臨在の中での祈り

1、詩篇 22：1～3 を開いてみましょう。

- ① この詩篇の冒頭のメシヤ預言のことばは、新約聖書に主イエス・キリストが叫ばれ成就した言葉です。どのような場面でしょうか（マタイ 27：46）
- ② 最暗黒のとき、賛美したこの詩篇の作者は全能の神はどこに住んでおられると言っていますか。（詩篇 22：3）

2、聖なる神様が賛美の中に住んでおられるとは、どういう意味でしょうか。

- ① 嬉しい時、感謝できる時…喜びが溢れ、さらに信仰の目が開かれる。
- ② 祈れないとき、苦しいとき、賛美するとその中にずっとおられる主が聞いて下さり、賛美の中から感謝が出てきて、信仰を持たせて下さる。

太陽は、晴れの日だけでなく、雨の日にも存在しているように、神様も、私たちの感情にかかわりなく存在しておられます。私たちは感情に左右されないで、神をほめたたえるべきです。御子をさえ与えて下さった神様は、どのような中でも、私たちを愛して下さることには変わりありません。

3、賛美歌、聖歌の歌詞を用いられ、心から歌うとき、神様はそこおられます。

- ① 賛美歌、聖歌はその作者に神様の力が注がれ、作詞作曲されていて、多くの賛美の中から、選ばれて編纂され、その背後に神様の介入がある。
- ② 賛美歌、聖歌を用いて賛美すると、やさしい音の響きによって心が潤され、賛美のことばが心の奥底にまで語りかけてくる。

4、新しい賛美を主に献げる（詩篇 149：2）

- ① 誰にでも、分かりやすい賛美…音楽性、言葉
- ② 楽器を用いて賛美する。（詩篇 149：3）